

デジタル教科書で実践する「前向き」な授業

—「使える英語」と「合格する英語」の両立を目指して—

森田 一義

大阪府立北野高等学校は、毎年、京都大学や大阪大学などの難関国公立大学に数十名が進学する伝統校である。現在、本校で教鞭をとる私は、数年間の塾講師の経験を経て、平成23年4月に赴任したばかりであるが、「使える英語」と「合格する英語」を両立させたいという情熱をもって、教壇に立っている。また当初から、平成25年度からの新学習指導要領に対応するためにも、生徒が音読を通して英語を身につける授業を展開しようと考えていた。

さて、本校では今年度から1年生の全教室に電子黒板*が導入された。毎日の授業で、電子黒板とデジタル教材を活用できるという恵まれた学習環境がすでに整っている。

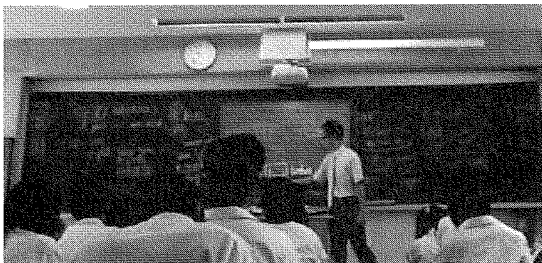
本稿ではデジタル教材の1つ、『Studyaid D. B. シリーズ デジタル教科書 POLESTAR English Course I』（以下、デジタル教科書）を活用した授業展開とその効果をいくつか紹介させて顶きたい。

1) 機能の活用とその効果

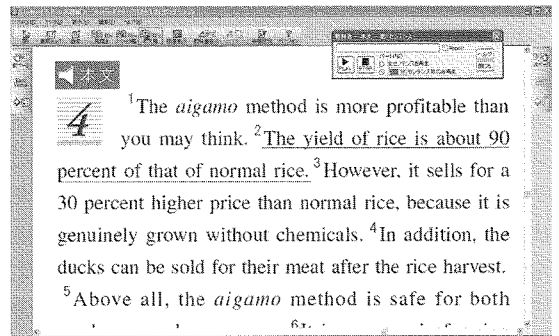
a) 教科書プレゼンテーション機能

機能の概要

生徒が手にする教科書がそのまま黒板に投影されるので、直接チョークで書き込むことができる。また、本文は2段階で拡大できる。文字だけではない。簡単なクリック操作で音声を聞くこともできる。



▲電子黒板ユニットを取り付けたプロジェクターで、黒板上に教科書紙面を投影して授業を展開



▲教科書紙面を表示して音声を再生

活用例とその効果

例えば、音読指導を目的に、次のような使い方をしている。教科書本文を黒板に投影した状態で音声を再生し、コーラス・リーディングを実践する。結果、生徒は全員が顔を上げて、「前を向いて」発声することになる。生徒1人1人の口の動きが確認できるため、より細やかな音読指導が可能になる。生徒にとって発音が難しい箇所は、その表情と口の動きを見れば明らかである。そのような場合は、デジタル教科書の機能を使って、指導ポイントを含む1センテンスだけを指定して再生することができる。

さらに、音声をリピート再生にしておけば、声あまり出ていない生徒に音読を促すなどの机間指導もしやすい。音声が流れている間は、再生中のセンテンスが赤い下線で強調表示されるので、生徒は今のセンテンスが読まれているのかを目で見て確認することができる。聞き取りが苦手な生徒には心強い機能と言える。

このように、デジタル教科書の利点の1つはその手軽さにある。パッと本文を映し出し、サッとポイント部分に下線を引き、スッと音読活動へと展開できる。この手軽さは、例えば、パート4まで進んで、パート1～3をザッと復習したいときなどにも便利である。ベテランの先生方であれば、あらかじめ補

助プリントをご用意されているのかもしれない。私はまだ学校現場に慣れることに必死なので、教科書プレゼンテーション機能の手軽さには大いに助けられている。また、板書に不慣れな間は、生徒を待たせることもある。デジタル教科書を使えば、投影した本文の上に解説を書き込むだけでよい。生徒を待たせる時間を必要最小限に抑えることができる。

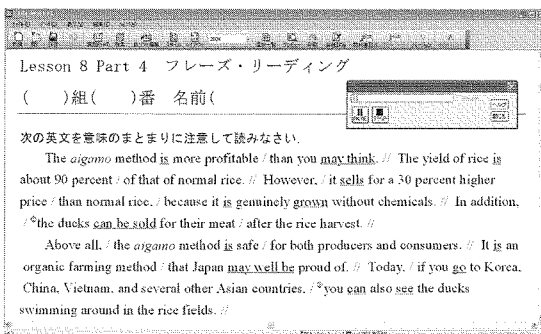
b) 実用 PrinT 機能

機能の概要

デジタル教科書はデータベース検索機能や実用 PrinT 機能など、さまざまなプリント作成機能を備えている。ただし、プリント作成機能とは言うものの、必ずしもプリントとして活用する必要はない。プリントアウトするのではなく、教室でプリントのレイアウトをそのまま黒板に投影する、といった使い方もできるのである。

活用例とその効果

例えば、デジタル教科書には教科書本文にスラッシュを入れた「フレーズ・リーディング」というプリントが各パートに用意されている。スラッシュの入れ方にはさまざまな基準があるため、自分が考えるスラッシュ位置とは若干異なることもあるが、その場合は、黒板に投影されたプリント紙面上に、チョークでスラッシュを書き加えればよい。いずれにせよ、スラッシュ入り本文プリントを作る手間が大いに省けるのである。



▲プリント紙面を表示して音声を再生

さらにプリントを表示した状態から、簡単なクリック操作で音声を再生することもできる。つまり、スラッシュが入った英文を黒板に投影し、それを見ながら音読することが可能なのである。たしかに、

パワーポイントで英文を作成し、CD で音声を再生すれば同じような活動はできる。ところが、概して準備に時間がかかるものである。デジタル教科書を使えば、慣れてくるとその準備には、ほんの20秒程度しかからないのである。

実用 PrinT として、単語テストも用意されている。テスト内容を黒板に投影して口頭で確認することも可能である。これも同様に20秒程度で黒板上に呼び出すことができる。時には生徒に解答を黒板に書かせるのも面白い。黒板に問題を表示し、あらかじめ用意しておいた紙に解答を記入させるという quiz を実施することも可能である。単語を確認したら、簡単なクリック操作で教科書の該当ページへとジャンプすることができる。答え合わせも兼ねて、本文を音読させるといった活動展開も可能である。

デジタル教科書では、プリント画面と教科書画面の行き来は簡単なクリック操作で行える。また、音声の再生機能やプリント素材が充実しているため、繰り返しの活動も容易である。本校は65分授業を採用している。授業計画通りに授業が進まずに、授業の最後で時間が余ったり、授業の合間で異なる活動を挟み込みたいと思ったりすることもしばしばある。デジタル教科書にプリント素材がいろいろと用意されており、音読活動や単語テストなどを手軽にできる。その場ですぐに異なる活動を挟み、授業の空気を変えることもできる。

c) 板書埋め込み機能

機能の概要

デジタル教科書にはあらかじめ板書内容が用意されているが、それだけではない。教員自らが文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトで作成した板書内容をデジタル教科書に埋め込むこともできる。埋め込んだ箇所をクリックすれば、オリジナル板書を表示することができる。

活用例とその効果

例えば、オリジナル板書として動画を埋め込めば、授業中に関連資料として動画を見せることも可能である。教科書紙面に「生きた英語」を埋め込んで使える英語へとリンクできる。また、インターネットに接続する環境があれば、関連するサイトを黒板で見ながら授業をすることも可能である。

2) 追加して欲しい機能

教科書巻末に載っている単語や重要表現と本文がリンクしていれば、単語クイズなどができる。Word Listの単語を見せて、どのレッスンの単語なのかを生徒に当てさせる。十分に記憶している生徒ならば、その単語が含まれる前後を思い出すことも可能であろう。そして、単語をクリックして本文へとジャンプし、音声を再生して確認することもできる。また、ドラッグ&ドロップで整序英作文ができる Exerciseがあれば、生徒を授業に参加させることが容易になる。さらに言えば、音声認識ソフトが組み込まれていれば、正しく発音しているかどうかの指導がしやすい。教科書本文を生徒が音読したものとモデル音声との比較ができ、視覚で違いを確認できるようになっていれば、生徒が自習で発音の練習ができる。

3) デジタル教科書の注意点

板書機能による解説表示や実用 Print を活用すれば、時間短縮が大いに期待できる。その結果、確保できた時間は、英語の理解を深める活動や生徒による主体的な活動のために使わなければならないと感じている。授業準備でプリント準備以外の、授業内容を考える時間は増えるであろう。私にとっては、授業準備は非常にワクワクする時間である。デジタル教科書を手抜きのための道具にしてはいけない。

また、オリジナル板書は、プリントと同様に、生徒の反応を見て、内容を変えることはできない。柔軟な対応という点では、黒板とチョークの授業には勝てない。オリジナル黒板を用いても、何を教えないのかというポイントを絞るプロセスは今まで通り大切だと感じている。

新しい機器は操作を覚えることに時間がかかるものである。その結果、生徒にとって学びの少ない授業になってはいけないと日々反省しながら授業に臨んでいる。

4) シェアして成長が加速する

デジタル素材であるがゆえに、映像やイラストなどのオリジナル板書は、担当教師間で共有することが容易である。校内 LAN とサーバーを活用すれば、共有フォルダにどんどん入れていだけで互いのプリントを見ることができる。私の指導教諭が作るプ

リントからは、到底追いつくことのできない知識の差を思い知らされる。

例えば、デジタル教科書を用いた授業の実践例を共有するポータルサイトがあれば、全国の優れた実践例を知ることでもできる。

私の実践例は、非常に初歩的で参考になる点は少ないと思う。私の願いは、この実践報告を読んで、デジタル教科書に「前向き」な先生が1人でも増えることである。

A as well as B = not only B but also A

Thank you for everything
as well as for your words at the meeting.¹⁾

Thank you not only for your words at the meeting
but also for everything.²⁾

She doesn't play as well as her sister.³⁾

▲オリジナル板書の例

説明が書き込めるように、行間は広めに、また、授業でも情報を加筆して、生徒が書き写す時間を確保する。

*オリジナル板書の例文は以下からの引用。

1), 2) *COBUILD English Wordbank*.

3) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 7th ed.
Oxford University Press.

* Canon の EB460T が設置されている。固定型なので、授業の際にデジタル教科書をインストールしたノートパソコンを持って行くだけである。慣れてくれば、接続して立ち上がるまで、2～3分である。

(大阪府立北野高等学校教諭)